

西村 直之（にしむら なおゆき）プロフィール

平成2（1990）年	琉球大学医学部卒
平成7（1995）年	琉球大学大学院医学研究科修了（精神神経薬理） 日本精神神経学会認定専門医、医学博士
平成6（1994）年～	依存問題の治療に取り組む 国立肥前療養所（現：肥前精神医療センター）にて国立初の開放型の薬物依存入院治療プログラム（DRP）の導入、精神保健福祉センターにおける認知修正とセルフケアに焦点を当てた薬物依存の家族教室プログラムを開発・実施 薬物依存回復支援施設ダルクの活動を支援し、複数のダルク(※1)の設立を援助。現在、沖縄ダルク理事、板橋ダルク顧問を務める 薬物依存当事者と連携した教育機関での薬物予防教育に取り組んだ。また、当事者活動のネットワークを支援するため九州エリアでは初のアディクション・フォーラム(※2)の開催運営を行った
平成10（1998）年～ 平成14（2002）年	厚生労働省班研究の研究員（薬物依存）
平成12（2000）年	この年に開設したギャンブルの問題を抱える人たちの回復支援施設NPO法人ワンデーポート(※3)の活動を支援し、平成26（2016）年より理事に就任
平成18（2006）年	ぱちんこ依存問題電話相談機関リカバリーサポート・ネットワーク(※4)を設立し代表理事として、電話による早期介入に取り組む
平成19（2007）年～ 平成26（2014）年	厚生労働省班研究 研究員(ギャンブル依存)(※5)
平成25（2013）年～	公益財団法人日工組社会安全財団パチンコ依存問題研究会研究員(※6)として、日本におけるパチンコ・パチスロ遊技障害の調査尺度、有障害率を調査し発表
平成28（2016）年～	ATA-net（多様化する嗜癖・嗜虐行動からの回復を支援するネットワークの構築）プロジェクト(※7)のギャンブリング領域を担当。龍谷大学矯正・保護研究センター研究員として依存問題の社会内処遇と回復支援の在り方を研究している
平成29（2017）年～	遊技業界の従業員教育にも取り組み、パチンコホール従業員が依存問題対策に当たれるように安心パチンコ・パチスロードバイザーの養成プログラムを遊技業界と作成し、研修を展開している また、競馬業界に対して講義を行い、従業員教育の支援を行った
平成29（2017）年6月	第5回特定複合観光施設区域整備推進会議（内閣府、※8）にて講師を務めた。IR整備に向けた国の議論において、自民党、公明党で講義
平成29（2017）年7月	ギャンブル等依存問題対策を行う一般社団法人RCPG(※9)を設立し、代表理事に就任
平成29（2017）年10月	ラスベガスにて開催されたTHE 18TH NCRG(※10) CONFERENCE ON GAMBLING AND ADDICTIONに日本から参加し、海外の研究者らと意見交換を行う
平成30（2018）年2月 （予定）	カナダ／バンクーバーでBCLC(※11)が主催するNew Horizons in Responsible Gambling Conferenceに参加予定

- ※1 ダルク
覚醒剤、有機溶剤(シンナー等)、市販薬、その他薬物から解放されるためのプログラムを持つ民間の薬物依存症リハビリ施設。回復と社会復帰支援を目的としている。
<http://darc-ic.com/>
- ※2 アディクション・フォーラム
体験発表、講演、モデルミーティング等を通し、アディクション(嗜癖・依存症)に対する理解・知識を深める為の当事者や援助職者によるフォーラム。
- ※3 NPO法人ワンデーポート
ギャンブルに問題のある人が入所生活をしながら、人生のやり直しをする施設。一人ひとりの背景を見て、様々な支援を行っている。
<http://www5f.biglobe.ne.jp/~onedayport/>
- ※4 リカバリーサポート・ネットワーク
パチンコ・パチスロの遊技に関する依存及び依存関連問題解決の支援を行うことを目的とする非営利の相談機関。問題でお悩みの方やそのご家族を対象に、無料で電話相談を実施。
<http://rsn-sakura.jp/>
- ※5 厚生労働省班研究 研究員(ギャンブル依存)
国民生活に深くかかわる保険、医療、福祉、労働分野の課題に対し、科学的根拠に基づいた行政政策を行うための研究活動。研究成果は安全・安心な国民生活の実現のため生かされる。
- ※6 公益財団法人日工組社会安全財団パチンコ依存問題研究会研究員
日工組社会安全研究財団は、昭和26年8月に発足して以来、「我が国の人々が犯罪と無縁でいられる安全で安心な社会を創るための研究及び事業を振興し、公共の安全と秩序の維持に寄与する」ことを目的として、広範な事業を行う。その中で、パチンコ依存問題を研究。
<http://www.syaanken.or.jp/>
- ※7 ATA-net
“のむ、うつ、かう、そして「なぐる」”というアディクションに注目し、「禁欲・禁止・処罰」だけではない対応を目指す。やり直し、立ち直り、回復(リカバリー)、脱暴力、離脱を可能にするために、理念、制度、臨床、実践、手続きを開発していく。
<https://ata-net.jp/index.html>
- ※8 第5回IR整備推進会議
http://www.kantei.go.jp/jp/singi/ir_promotion/ir_kaigi/dai5/siryoku.html
- ※9 一般社団法人RCPG
統合的な学術的知見に基づき、ギャンブル等依存問題に対する必要かつ適正な対策を行う団体。ギャンブル等依存問題への対策及び予防に関する創造的な提案と人材の育成を通じて、心豊かな社会の実現に貢献。
<http://www.rcpg.or.jp/>
- ※10 NCRG (National Center for Responsible Gaming)
ギャンブリング障害に対する実証研究とそれに対する支援活動を行う米国における唯一の民間機関
<http://www.ncrg.org/>
- ※11 BCLC(British Columbia Lottery Corporation)
オンラインギャンブリング事業(Lottery他)を展開するカナダ国営企業
<http://www.bclc.com/>